

二つの『老乞大集覽』(上)

竹越 孝

1. はじめに

筆者は先に、崔世珍(1467-1543)が著した『老朴集覽』(1517年以前成立)中の一篇『單字解』につき、乙亥字本『老朴集覽』所収本及び『朴通事諺解』所収本という二種類のテキストを比較し、その異同をめぐる若干の考察を行った(拙稿2008)。本稿では、同様の作業を『老乞大集覽』について行なってみたいと思う。

乙亥字本『老朴集覽』に収められる『老乞大集覽』(以下乙亥字本)は全二巻で上巻3葉、下巻4葉、毎半葉10行、行18字(ただし上に1字分の空格あり)。本稿では李丙疇(1966)の影印に基づく。

『朴通事諺解』(1677年序)の巻末に収められる『老乞大集覽』(以下朴通事本)も全二巻で上巻2葉、下巻4葉、毎半葉11行、行20字(上に1字分の空格あり)。本稿では京城帝國大學(1943)の影印に基づく。

なお、『老乞大集覽』上下巻の所収語彙の出現箇所が『翻譯老乞大』の上下巻に対応していることから、『老乞大集覽』は『老乞大』が1480-83年の第一次改訂を経た後、諺解が付され上下二巻の体裁を持つようになったのと同時期、あるいはその後に成立したと考えてよいであろう(拙稿2006参照)。

2. 項目の対照

『老乞大集覽』の所収項目に通し番号を付し、乙亥字本と朴通事本における該当箇所を示すと下表の通りである。なお外字は[]内に偏旁を記すこととし、左右関係は無表示、上下関係は「/」、包括関係は「く」で示す：

No.	項目	乙亥字本	朴通事本
1	火伴	上 1a2	上 1a2
2	花押	上 1a2-4	上 1a2-4
3	漢兒人有	上 1a4-5	上 1a4
4	温克	上 1a5	上 1a4-5
5	年時	上 1a5-6	上 1a5-6
6	山東	上 1a6	上 1a6
7	濟寧	上 1a6-7	上 1a6-7
8	東昌	上 1a7-8	上 1a7

9	高唐	上 1a8-9	上 1a7-8
10	牙稅錢	上 1a9-10	上 1a8-9
11	繳	上 1a10-1b1	上 1a9-10
12	加五	上 1b1-2	上 1a10-11
13	直沽	上 1b2-4	上 1a11-1b1
14	姑舅哥哥	上 1b4	上 1b1-2
15	房親	上 1b5-6	上 1b2-4
16	左近平人	上 1b6-9	上 1b4-6
17	弓兵	上 1b9-10	上 1b6-7
18	襲	上 1b10-2a1	上 1b7-8
19	轆轤	上 2a1-5	上 1b8-2a1
20	洒子	上 2a5-6	上 2a1
21	東廁	上 2a6-8	上 2a1-3
22	行李	上 2a8-10	上 2a3-5
23	張社長	上 2a10	上 2a5
24	夏店	上 2a10-2b1	上 2a6
25	車房	上 2b1	上 2a6
26	排門粉壁	上 2b1-2	上 2a6-7
27	閣北	上 2b2-3	上 2a7
28	酒館	上 2b3	上 2a8
29	街坊	上 2b3	上 2a8
30	文引	上 2b3-4	上 2a8-9
31	走出來	上 2b4	上 2a9
32	盤問	上 2b4-5	上 2a9
33	纏張	上 2b5	上 2a9-10
34	老娘娘	上 2b5-6	上 2a10
35	院子	上 2b6	上 2a10-11
36	參兒高	上 2b6-8	上 2a11-2b1
37	明星	上 2b8-9	上 2b1-2
38	駝馱	上 2b9	上 2b2
39	卸	上 2b9-10	上 2b2-3
40	濕麵	上 2b10-3a1	上 2b3-4
41	這湯	上 3a1-2	上 2b4-5
42	爐裏	上 3a2-3	上 2b5-6
43	細絲兒	上 3a3	上 2b6

44	鍋竈	上 3a3-4	上 2b6-7
45	喜鵲兒	下 1a2	下 1a2
46	疹子	下 1a2-5	下 1a2-5
47	劣馬	下 1a5-6	下 1a5-6
48	濟南府	下 1a6-7	下 1a6-7
49	[疒<桑]馬	下 1a7-8	下 1a7
50	要約	下 1a8-9	下 1a7-8
51	涿州	下 1a9	下 1a8-9
52	羝羊	下 1a9-10	下 1a9
53	臊胡羊	下 1a10-1b3	下 1a9-11
54	殺[羊歷]	下 1b3-4	下 1b1
55	母殺[羊歷]	下 1b4-5	下 1b1-2
56	縣羊	下 1b5-10	下 1b3-7
57	蘇州	下 1b10-2a1	下 1b7-8
58	杭州	下 2a1-3	下 1b8-10
59	嘉興	下 2a3-4	下 1b10-11
60	易州	下 2a4-6	下 1b11-2a1
61	湖州	下 2a6-7	下 2a1-2
62	花拘絲	下 2a7	下 2a2-3
63	利家	下 2a7-9	下 2a3-4
64	細褶	下 2a9	下 2a4-5
65	閘口	下 2a9-10	下 2a5
66	外路	下 2a10-2b1	下 2a5-6
67	替子	下 2b1-5	下 2a6-10
68	鉏子	下 2b5-6	下 2a10
69	虎爪	下 2b6	下 2a10-11
70	艾葉	下 2b6	下 2a11
71	柳葉	下 2b7	下 2a11
72	迷針	下 2b7-8	下 2a11-2b1
73	什物	下 2b8-9	下 2b1-2
74	紅漆匙	下 2b9-10	下 2b2-3
75	外甥	下 2b10	下 2b3
76	姘子	下 2b10	下 2b3-4
77	孀母	下 3a1-2	下 2b4-5
78	外甥女婿	下 3a2-3	下 2b5-6

79	車釧	下 3a3	下 2b6
80	車鑷	下 3a3-4	下 2b6-7
81	庫車	下 3a4-5	下 2b7-8
82	驢騾大車	下 3a5-6	下 2b8-9
83	遠塚子	下 3a6-7	下 2b9
84	三棚	下 3a7-8	下 2b9-11
85	團攪湯	下 3a8-10	下 2b11-3a1
86	脉息浮沉	下 3a10-3b4	下 3a1-5
87	剋化的	下 3b4-5	下 3a5
88	幫閑的	下 3b5-6	下 3a5-6
89	脱套換套	下 3b6-7	下 3a6-7
90	繡銀條紗	下 3b7	下 3a7-8
91	鬧裝	下 3b7-8	下 3a8
92	剛叉帽	下 3b8-10	下 3a8-10
93	倒提雲	下 3b10-4a1	下 3a10-11
94	鴈爪	下 4a1-2	下 3a11-3b1
95	醒酒湯	下 4a2-3	下 3b1-2
96	點心	下 4a3-4	下 3b2-3
97	白煮	下 4a4-5	下 3b3
98	絃子	下 4a5	下 3b3-4
99	粧孤	下 4a5-6	下 3b4-5
100	花使	下 4a6-7	下 3b5
101	倣保	下 4a7	下 3b5-6
102	耽閣	下 4a7-8	下 3b6
103	青絲	下 4a8	下 3b6
104	帖	下 4a8	下 3b6-7
105	[一/糸言糸/巾]帶	下 4a8-9	下 3b7
106	大運	下 4a9-4b1	下 3b7-9
107	喜神	下 4b1-3	下 3b9-10
108	火帳	下 4b3	下 3b10-11
109	燒珠	下 4b3-4	下 3b11-4a1

上表によると『老乞大集覽』は乙亥字本・朴通事本とも全 109 項目であり、どちらかが欠けている項目というものはない。なお、朴通事本は 56 の「縣羊」を「綿羊」に、また 57 の「蘇州」を「蕪州」に作るが、いずれも字体の相違に

過ぎない。

『單字解』の場合は、乙亥字本の全 151 項目に対して朴通事本は全 124 項目と 27 項目少なく、かつ中間に 8 項目、ほぼ 10 行分にわたる欠落がある。筆者は拙稿（2008）においてこのことに触れ、現存の乙亥字本『老朴集覽』が一つの書物でありながら『單字解』・『累字解』が毎半葉 9 行、『老乞大集覽』・『朴通事集覽』が毎半葉 10 行という変則的な体裁を持つことを手がかりに、最もオリジナルに近い形の『單字解』は 9 行本であり、後にこれに基づく 10 行本が作られ、朴通事本が依拠したのは 10 行本であった、という推定を記した。

この推定は、全篇が一律に毎半葉 10 行という体裁を持つ『老朴集覽』がかつて存在したことを示唆するものであるが、現存する二つの『老乞大集覽』に項目間の異同がないという事実は、この推定にとって不利ではないと言えよう。

（待続）

<参考文献>

- 京城帝國大學（1943）『朴通事諺解』京城帝國大學法文學部（奎章閣叢書 8）。
- 竹越孝（2006）『『老朴集覽』と『翻譯老乞大・朴通事』の編纂順序』『東ユーラシア言語研究』1：150-160。
- 竹越孝（2008）「二つの『單字解』（上下）」『KOTONOHA』64：3-9；65：5-10。
- 李丙疇（1966）『老朴集覽考』서울：進修堂。